

>>> Interview 11



協力隊で身につけた「課題解決力」と「適応力」。

総合商社 営業職
余郷 友祐 さん (岐阜県可児市出身)

派遣国 グアテマラ (小学校教育)
派遣期間 2014.06~2016.06



特に、「課題解決力」と「適応力」が役立っていると感じます。課題を解決するための道筋を順序立てて考えたり、目標の達成に対し確実に実践していく力が身についたと思います。また、相手や対象に応じて自身の思考を柔軟に変化させ、適応しようとする姿勢も心がけています。今後は「コミュニケーション力」や「語学力」も活かしていくことで、より高い次元の仕事任せられるように努力をしていきたいです。その他では、「食事」、「安全」、「人権」など、日本の日常生活では、満たされて当たり前のことですが、そういった環境で生活できることは、大変幸せなことなのだ学びました。

>>> Interview 12



協力隊での出会いや経験のすべてが私の考えをすっかり変えた。

岐阜県立可茂特別支援学校
磯野 沙織 さん (岐阜県各務原市在住)

それまでの人生では出会わなかったような人達とたくさん出会い、それまで見たこともなかったような景色がどこまでも目の前に広がり、それまで経験したこともなかったことが次々と起こり、その全てが私の考えをすっかり変えました。中でも、言葉も宗教も文化も異なるスリランカの人達との間わりにおいては数多くの葛藤や戸惑いも感じましたが、同時に相手との違いを受け入れること、その上で互いを尊重し、どうしたら上手くやっていけるかを共に考えていくことの大切さを学びました。多様な価値観に触れたことは今の仕事や人生においても大いに役立っています。

>>> Interview 13



出発前のイメージを覆すカンボジアで感じた暖かさ。情報に流されず見分ける力が大切だと知った。

岐阜県高校教員
中間 優希 さん (岐阜県都上市在住)



派遣国 カンボジア (青少年活動)
派遣期間 2014.07~2016.03

外国で実際に肌で感じて体験したことは、テレビからの情報や、座学で学んだことは全く異なっていました。日本の子ども達にカンボジアのイメージは?と聞くと、貧しいや、ご飯が美味しくないといったマイナスのイメージがほとんどで、私も出発前まではそう思っていました。しかし実際は、大家さんが作ってくれたカンボジア料理はびっくりするほど美味しいし、私が自転車ですぐ走っていると、「ゆきご飯べたー?」や「どこいくの?」とあちこちから声が聞こえ、人との繋がりを大切にする温かさがありました。街中は笑顔で満ち溢れ一人ぼっちになることがない国、それがカンボジアでした。今、世の中は多くの情報で溢れています。その中で、私たちは何が正しくて正しくないのかを見分ける力が重要となってきます。私が得た情報がすべてではないということを実際に様々な場面で経験したので、多角的・多面的思考力をこれからも伸ばしていきたい、今後起こりうる様々な困難にも柔軟に対応していきたいと思っています。

What's JICA Volunteer? JICAボランティアとは…

JICAボランティアとは、「お互いの価値観・生活様式・文化を尊重し、直接ふれあい、交流しながら、貧困問題、環境問題などその国の社会の抱える問題に取り組み、経済や社会の発展に貢献することを目的としたボランティア」です。

■ 事業の目的

開発途上国の経済・社会の発展、復興への寄与

よりよい明日を世界の人々と共有するため、日本が持つ技術や経験を伝え、開発途上国の人々に役立ててもらいます。

異文化社会における相互理解の深化と共生

JICAボランティアが現地の人々を理解していくように、現地の方にも、JICAボランティアを通じて日本が理解され、共生・協働が行われるようになります。深化する相互理解と共生の営みにより持続可能な開発の実現を目指していきます。

ボランティア経験の社会還元

ボランティアには、JICAボランティア事業への参加を通じて身につけた知識や経験を日本の地域や世界の発展に役立てることが期待されています。JICAは、ボランティアが経験を社会還元する取り組みを支援していきます。

History JICAボランティア事業の歩み

1960

1965年 日本青年海外協力隊(JOCV)発足
初の協力隊員派遣(ラオス)
1966年 アフリカ(ケニア)に協力隊員初派遣
1968年 中米(エルサルバドル)に協力隊員初派遣

1970

1972年 大洋州(西サモア)に協力隊員初派遣
1974年 国際協力事業団(JICA)設立、日本青年海外協力隊を「青年海外協力隊」と改称
1978年 南米(パラグアイ)に協力隊員初派遣

1980

1985年 海外開発青年(日系社会青年ボランティアの前身)事業開始

1990

1990年 青年海外協力隊 派遣隊員1万人突破
シニア協力専門家(シニア海外ボランティアの前身)事業開始
移住シニア専門家(日系社会シニア・ボランティアの前身)事業開始
1992年 東欧(ハンガリー)に協力隊員初派遣
1996年 海外開発青年を「日系社会青年ボランティア」に改称
シニア協力専門家を「シニア海外ボランティア」に改称
移住シニア専門家を「日系社会シニア・ボランティア」に改称

2000

2000年 青年海外協力隊 派遣隊員2万人突破
2003年 独立行政法人国際協力機構(JICA)発足
2007年 青年海外協力隊 派遣隊員3万人突破
2008年 JBICの海外経済協力部門との統合により新JICA発足
2011年 東日本大震災の復興支援で青年海外協力隊員と帰国隊員が活躍
2015年 青年海外協力隊 派遣隊員4万人突破
青年海外協力隊発足50周年
2016年 青年海外協力隊が「ラムン・マグサイサイ賞」を受賞



「日本も元気にする」 青年海外協力隊



青年海外協力隊をはじめとするJICAボランティアとして開発途上国の課題解決に取り組み、帰国したボランティアの人数が5万人を超えました。彼らは、2年間にわたる開発途上国でのボランティア活動を通して、異なる文化や生活、価値観に触れながら、広い視野や豊かなコミュニケーション能力、課題解決能力を磨いてきました。青年海外協力隊として赴いた国の課題の解決に取り組む中で、日本という国や自身を顧みながら人間として成長しました。帰国後、それぞれの生き方の中で、2年間の経験がどのように活かされているのか、帰国したボランティアのみなさんに聞いてみました。

■ 関係団体

岐阜県青年海外協力隊を支援する会

〒509-0115 各務原市緑苑南2-75(事務局長宅)
(TEL) 058-370-7636 (FAX) 058-370-7636
(Email) gifutaka@xj.comnifu.jp

JICAボランティア岐阜県OV会

(TEL) 090-5449-0130 (Email) isao54tnk@gmail.com

公益社団法人 青年海外協力協会

中部支部(JOCA中部支部)

〒453-0015 愛知県名古屋市中村区椿町17-16 丸元ビル804号
(TEL) 052-459-7224 (FAX) 052-459-7225
(URL) <http://www.joca.or.jp/chubu>

■ JICAデスク

国際協力推進員

国際協力推進員は「地域のJICA窓口」として、JICA事業の広報及び啓発活動の推進、自治体等が行う国際協力事業との連携促進等の業務を行っています。岐阜県には青年海外協力隊経験者が配置されています。

JICA岐阜県デスク

〒500-8875 岐阜県岐阜市柳ヶ瀬通1-12 岐阜中ビル2F(公財)岐阜県国際交流センター
(TEL) 058-263-8069 (FAX) 058-263-8067
(Email) jicadpd-desk-gifuken@jica.go.jp



せこ ひでひろ
世古 英弘 派遣国 トンガ 派遣職種 村落開発普及員

リサイクル適性
この印刷物は、印刷物の紙をリサイクルできます。
制作…2018年3月